



「する通り」になる

校長 土田 志津子

収穫を終えた田んぼが、今年の自分の役割を果たし、穏やかに秋を満喫しているように見えます。あんなに暑かった夏から、秋になりました。運動したり学習したりするには一番いい季節です。

「子どもは親や教師の『いう通り』にはならないが、『する通り』になる。』この話は、ノートルダム清心学園理事長渡辺和子さんの著書にあった言葉です。文房具類を万引きして捕まった子どもに、「馬鹿だなあ。このぐらいなものならパパがいくらでも会社からもってきてやったのに。」・・・子どもは、親や教師の「いう通り」にはならないが、「する通り」になる。だから、子どもには、周囲に良い手本がなければならない。子どもに「なってほしい姿」を、親も教師も自ら手本を示す努力をしなければならない、という内容の話です。

9月の生活目標は、「あいさつのわをひろげよう」でした。児童玄関先での学級毎のあいさつ運動（1週間）や教室前でのあいさつ運動（1ヶ月間）を実施しました。成果は、どうでしょう。（詳しくは、後日出される生徒指導便りをご覧ください。）初めの一週間は、いつもより大勢の子ども達が挨拶を交わしていました。進んで、他学年の人たちに挨拶をする姿もありました。しかし、月末の頃になると、自分から挨拶をする子どもの数は、半減してしまいました。

私は、毎朝とはいかないのですが、玄関前で子ども達に「おはようございます」の声かけをしています。一学期は、こちらから挨拶をしたら返してくれることを目標に行っていました。重たかった子ども達の口も、少しずつ慣れて軽くなり、学期末にはかなり挨拶を返してくれるようになりました。

二学期は、子ども達から進んで挨拶ができることを目標にして今練習中です。わざと黙って立っています。今の所、私がいると気づいたり目が合ったりすると、「おはようございます」と進んで挨拶をする子どもは、全校児童の約2/3くらいです。あと1/3の子ども達を何とかしなければと思っています。

「挨拶」が大事なことは、大人の私たちが一番よく知っています。人と人を繋ぐ大事な大事なコミュニケーションです。これが当たり前でできて商談もまとまるわけですし近所づきあいも良好にできるわけです。子ども達の社会でも同様なことが言えます。大人になってから教えることではありません。

物を大事に使う、使った物は片付ける、ありがとう・はい・いいえ・ごめんなさい等の言葉が遣える・・・等々、子どもの時にできるようにしておかなければならない当たり前のことを、一つ一つしっかりとできるようにさせるのは、教師や親の仕事です。そこで、冒頭の「子どもは親や教師の『いう通り』にはならないが、『する通り』になる。』ということからも、私たち教師や保護者のみなさん、祖父母のみなさん、地域のみなさんは、力を合わせて子ども達のために、なってもらいたい、してもらいたい姿の手本を示していきたいと思います。どうぞご協力をお願いいたします。

秋の交通安全週間期間中、パトロールカーのおまわりさんに「おはようございます」と声をかけている通学班がありました。れんぎょうパトロールの方々に挨拶している姿も見られました。止まってくれた車の運転手さんに頭を下げる姿もありました。あいさつのわをひろげたいです。